第1学年○組　外国語科学習指導案

令和４年○月○日（○）第○校時

場所　○年○組教室

授業者 ○○　○○

ALT　○○　○○

**１　単元名**　Unit 9 Think Globally, Act Locally　( New Horizon English Course 1)

**２　単元について**

本単元では、後輩である小学６年生に、「将来の夢」について、事実や自分の考えや気持ちを含めた発表ができることを目指している。題材は、メグが目標とする人についてクラスでスピーチをする場面と、海斗とメグが国際交流イベントに参加して世界的問題についてのプレゼンテーションを聞く場面である。教科書の英文を通して目標とする人の紹介などに触れることで、自分の将来の夢を伝える発表につなげたい。また話し手として伝えたい内容や順序、聞き手にわかりやすい展開や構成などを考えさせることで、聞き手に配慮したまとまりのあるスピーチをする力を養う。

言語材料は、不定詞の名詞的用法と〈look＋形容詞〉である。want to ～は小学校でもよく使われる表現であり、Unit 3でも表現として取り上げてきたので、生徒にとってはなじみがあり定着も早いことが期待される。ここでは不定詞の名詞的用法として捉え直し、スピーチ内で応用できるように指導していく。

**３　生徒の実態について**

本学級の生徒は、学習活動に対して全体的に前向きに取り組もうとする姿勢が見られる。また、和やかな雰囲気で英語によるインタラクションを行う生徒が多い。小学校でインタビュー活動、発表活動等を通してコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育んできたが、年度当初のアンケートから、文字を書くことに対しての苦手意識があり、「英語は好きだが（少し）苦手」と感じている生徒が全体の73％であった。定期テストやパフォーマンステストの結果からも、文字や単語を書くことや、語順を定着させることに時間がかかっている生徒が多く見られる。語彙知識や語順は、自分が伝えたいことを適切に伝えるために非常に重要な要素である。普段の授業において、生徒自身が言えるようになったことを正確に書けるように継続的に指導していく。

「将来の夢」についてのスピーチを作成する段階では、want to～等の何度も触れたことがある言語材料については、多くの生徒は文中で適切に使用することができると思われる。既習事項の活用が難しい生徒には個別に支援を行い、活用できる生徒には幅広い表現を考える機会を与えていく。また、テーマに沿ったスピーチの展開を考えたり、相手を意識して工夫したスピーチを行う活動について、生徒は本単元で初めて取り組むこととなる。生徒が相手を意識したコミュニケーションとしてのスピーチを行えるように、スピーチを行う目的、場面、状況を明確に設定したい。また、生徒同士の対話的な活動の中で互いの原稿を読み合ったり、生徒が自らの気付きによって推敲したりするための機会を意図的に設けたい。それらの活動を通して、知識・技能の定着を図るとともに自分の思いや考えを適切に伝える力を養いたい。

**４　単元の目標**

地域の小学生に、将来の夢を伝えるために、「自分の将来の夢」について事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話したり書いたりすることができる。

**５　単元の評価規準**

（本単元における「話すこと［発表］」「書くこと」以外の領域については、目標に向けての指導は行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 話すこと  （発） |  | 将来の夢について地域の小学生に伝えるために、自分の思いや考えなどの内容を整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話している。 | 将来の夢について地域の小学生に伝えるために、自分の思いや考えなどの内容を整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話そうとしている。 |
| 書くこと  （書） | 〈知識〉  不定詞（名詞的用法）や〈look＋形容詞〉を用いた表現の特徴やきまりを理解している。  〈技能〉  将来の夢について、不定詞（名詞的用法）や〈look＋形容詞〉などを用いて書く技能を身に付けている。 |  |  |

**６　単元の指導と評価の計画（10時間扱い）**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ◆ねらい〇活動 | 評価 | | | |
| 知技 | 思判表 | 態 | ◎評価規準〈評価方法〉 |
| 1 | ◆単元の目標を理解する。  ○教科書の英文を通して不定詞の名詞的用法の使い方について理解する。  ○教師とALTのやり取りを聞いて、ALTの夢を理解する。  〇自分自身が将来なりたいものを書く。  ○本単元の自身の目標について考える。 |  |  |  | 本単元において、第１時から第５時まで、また第７時から９時までは目標に向けた指導は行うが、記録に残す評価を行わない。 |
| 2 | ◆「将来の夢」について、自分の考えや思いを交えながら書く。  ○マッピングを使って、自分の考えを整理し、ペアで対話をする。  ○教科書の英文を通して不定詞の名詞的用法の疑問文の使い方について理解する。 |  |  |  |  |
| 3  本時 | ◆「将来の夢」について、わかりやすく伝えるための工夫について考える。  〇教師のモデルを見て、気付いたことを話し合う。  ○教科書を見て、よりよく伝えるための表現を確認する。  ○ペアでスピーチを行い、聞き手に分かりやすく伝えるための工夫について考える。 |  |  |  |  |
| 4 | ◆「将来の夢」について、聞き手を意識してスピーチを再構築し、まとまった英文を書く。  〇小学生に対して伝えることを意識してスピーチを再構成する。  ○聞き手に伝わりやすい英文になっているかの視点で互いの英文を読む。 |  |  |  |  |
| 5 | ◆「将来の夢」について、スピーチをする。  〇タブレットを使用して、互いのスピーチを録画する。 |  |  |  |  |
| 6 | ◆将来の夢について、簡単な語句や文を用いて正確に書く。  ○文法の正しさを確認する視点で互いの英文を読む。  ○英文を正しく書き直す。 | 書 |  |  | ◎不定詞（名詞的用法）や〈look＋形容詞〉を用いた表現の特徴やきまりを理解している。〈ワークシート〉  ◎将来の夢について、自分の思いや考えなどを簡単な語句や文を用いて書く技能を身に付けている〈ワークシート〉 |
| 7 | ◆聞き手に伝わりやすいスピーチについて考える。  ○タブレットを使用して、互いのスピーチを録画する。  ○聞き手に伝わりやすいかどうかを意識して、互いに助言する。  ○行きたい国とそこでしたいことを尋ねたり答えたりする（インタビュー形式）。 |  |  |  |  |
| 8 | ◆聞き手に伝わりやすいスピーチについて工夫をして再構築する。  ○教科書の英文を通して〈look＋形容詞〉の使い方について理解する。  〇よいスピーチの例を共有し、伝わりやすいスピーチを作るための工夫について確認する。 |  |  |  |  |
| 9 | ◆世界や地域の問題を伝え、自分の思いを伝える。  〇世界や地域の問題について考え、互いに考えを伝え合う。  ○自身の目標の達成状況を振り返り、次の課題を明確にする。 |  |  |  |  |
| 10 | パフォーマンステスト |  | 発 | 発 | ◎将来の夢について、聞き手に伝わるように工夫してまとまりのある内容を話している。〈観察〉  ◎将来の夢について、聞き手に伝わるように工夫してまとまりのある内容を話そうとしている。〈観察〉 |
| 後日 | ペーパーテスト | 書 |  |  | ◎不定詞（名詞的用法）や〈look＋形容詞〉を用いた表現の特徴やきまりを理解している。 |

**７　本時の展開**

**目標**「将来の夢」について、聞き手を意識してまとまりのある内容でスピーチをするための工夫について考える。

**準備** ワークシート、タブレット、教科書、ノート

**〇本時の展開**（３／１０）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **過程** | **学習活動《学習形態》・学習内容** | **・指導上の留意点** |
| 導入１０分 | **Greeting**《全体》  **Challenge Time**《個人》 | ・生徒が自身の目標を達成するために工夫して取り組めるよう助言する。  ・必要に応じてICTの活用を促す。 |
| 展開３５分 | **Introduction of Today’s Activity**  **〇**JTEとALTのやり取りを聞く。《全体》  **〇**聞き手にわかりやすい発表を考える《小グループ》  ・発表の工夫について、考えを伝える。  **〇**モデルスピーチを見る《小グループ》  　　　　・分かりやすい発表とそうでない発表の違いについて考えを伝え合う。  **〇**自分のスピーチに活かしたい工夫を考える《個人》  ・ブレインストーミングでスピーチの構想を膨らませる。  ・伝える内容の順番を図式化する。  **〇**教科書を見て、自分のスピーチに活かしたい工夫を考える。《個人》  **〇**互いにスピーチをしてアドバイスをする。《ペア》  　　　　・工夫を入れたスピーチを聞いて、互いにアドバイスをする。  　　　　・分かりづらかった表現を確認し、聞き手に分かりやすい語句や表現を調べる。  **〇**アドバイスを受けて、もう一度スピーチをする。  《ペア》  ・スピーチを聞き合って、互いにアドバイスをする。  生徒が表現する英文の例  ・Hi, everyone. I’m talking about my dream.  Look at this picture. Do you know him?  I want to be a soccer player. I respect Messi.  He is a very famous soccer player. I want to be like him.  So I practice hard. Thank you.  ※ 破線部は聞き手に配慮した工夫の例 | **本時のねらい ： 「将来の夢」について、聞き手にわかりやすく伝えよう。**  ・やり取りを通して、目標を理解し、わかりやすい発表にするための工夫に気付かせる。  ・全体で発表の工夫についての考えを共有する。    ・モデルを見て、発表の違いを確認する。  　以下の視点で指導する。  ①発表の流れ（内容面）　②相手意識  ・気付きが不十分な生徒がいれば、他の生徒の工夫を全体で共有し、確認する。  ・机間指導を行い、発表の工夫について、個別指導を行う。  ・ALTから工夫ができている（さらに必要な）点についてアドバイスがあれば伝える。  ・机間指導を行い、生徒がよりわかりやすい発表にするために行っている工夫を見届ける。  ・よくなった点をJTE , ALTから伝える。  ・分かりやすく伝えるための工夫の中でよいものは全体で共有する。 |
| まとめ５分 | **Consolidation**《全体》  **Reflection**《個人》  ・授業の振り返りを単元シートに書く。《個人》 | **まとめ：聞き手にわかりやすく伝えるためには、**  **①伝え方（声量、視線、間）　②伝える内容の順番　を工夫するとよい。**  ・生徒の気付き、疑問を次の授業で共有する。 |

**８　板書計画**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 本時の課題　「将来の夢」について聞き手にわかりやすく伝えよう。 　Wednesday, November 30th     |  | | --- | | Greeting | | Challenge time | | Activity | | 振り返り |   ①わかりやすいスピーチとは　　　　③自分のスピーチに活かせる工夫  ・　　　　　　　　　　　　　　　　・   * ・   ②モデルスピーチからわかったこと　まとめ　聞き手にわかりやすく伝えるための  ・　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　ポイント  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　①伝え方（声量・視線・間）  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　②伝える内容の順番（流れ） |